

稚内高校

令和 8 年度シラバス

普通科 2 年

目次

- | | | |
|----------|------------|-------------------|
| 1. 論理国語 | 9. ビジネスと数学 | 17. 書道Ⅱ |
| 2. 文学国語 | 10. 物理基礎 | 18. 英語コミュニケーションⅡ |
| 3. 世界史探究 | 11. 生物基礎 | 19. 時事英語 |
| 4. 地理探究 | 12. 化学 | 20. 家庭基礎 |
| 5. 日本史探究 | 13. 体育 | 21. 保育介護 |
| 6. 公共 | 14. 保健 | 22. ビジネスコンピューティング |
| 7. 数学Ⅱ | 15. 音楽Ⅱ | |
| 8. 数学B | 16. 美術Ⅱ | |

教科 科		国語	科目	論理国語	年次	2	単位数	2	必修
使用教科書		論理国語（大修館書店）							
使用副教材		漢字とことば 常用漢字アルファ 五訂版（桐原書店） 読み解くための現代文単語（文英堂） 評論速読トレーニング1000（数研出版）							
科目の目標		国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。							
評価の観点		① 知識・技能		② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。		論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。			
評価の算出		上記の趣旨をふまえ、定期考査や小テストを基に評価を算出する。		上記の趣旨をふまえ、定期考査や提出物、小テストを基に評価を算出する。		上記の趣旨をふまえ、提出物や授業内の活動、小テスト等を基に評価を算出する。			
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②	③	
前	4	5	対話の精神			◎	◎	○	小テスト
	5	3	言葉を定義する			○	◎	○	提出物
		4	古典における論理を学ぶ：漢文基礎の確認			○	○	○	授業での様子
	6	8	ミロのヴィーナス			◎	◎	○	
期	7	4	具体的・抽象的に書く			○	◎	○	小テスト 提出物
	8	4	家族化するペット 前期期末考査			◎	○	○	定期考査 授業での様子
		4	古典における論理を学ぶ：漢文句形			○	○	○	
	9	4	科学は生きている			○	◎	○	
後	10	4	立場を明確にして書く			◎	○	○	小テスト
	11	4	古典における論理を学ぶ：漢文句形			○	○	○	提出物 授業での様子
		4	敬語への自覚、他者への自覚			◎	◎	○	
	12	4	スキーマと記憶			○	◎	○	
期	1	4	図版を分析して書く			◎	◎	○	
	2	6	社会的実在としての言語・法・貨幣			○	◎	○	小テスト 提出物
		4	意見を交流する 後期期末考査			◎	○	○	定期考査 授業での様子
	3	4	調べたことをレポートにまとめる			◎	◎	○	
合計		70							
学 習 方 法 ・ そ の 他									
○読めない漢字や意味のわからない語句を見つけたら、必ず調べましょう。語彙力が向上します。 ○基本的にどの単元においても「自分の考え」を作成し、他者に伝える活動を行います。思考力や表現力が向上します。ここで培う力は、社会で生きるものとなるので、真剣に取り組まましょう。 ○批判的なものの見方や捉え方、客観性を身に付け、高めることを心がけましょう。 ○定期的に『現代文単語』や漢字の小テストを実施します。1年後には定着させられるように、こつこつ取り組みましょう。									

教 科		国語	科目	文学国語	年次	2	単位数	2	必修	
使用教科書		文学国語（東京書籍）								
使用副教材		読んで見て覚える重要古文単語315 三訂版（桐原書店） 基礎から学ぶ古典解析文法 三訂版・演習ノート（桐原書店） 基礎から解釈へ 漢文必携 五訂版・チェックノート（桐原書店）								
科目の目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。			深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
評価の算出		生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。			定期考査や授業内で行う課題、提出物の出来によって算出する。			毎時間行う小テストや課題への取り組み状況によって算出する。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4	2	オリエンテーション・復習テスト				◎	○	◎	復習テスト
		4	（随筆）雨月物語（古文：雨月物語）				○	◎	○	小テスト・課題
	5	6	※資料 古文「物語」を読む				◎	○	○	ワークシート
	6	6	（小説）山月記				○	◎	○	小テスト・課題
	7	6	※資料 古文「日記文学」を読む				◎	○	○	ワークシート
		4	（小説）鞆				○	◎	○	小テスト・課題
	8									
	9	2	前期期末試験・返却と解説							
後 期	10	8	（小説）ころも				○	◎	○	小テスト・課題・提出物
		6	（評論）文学のふるさと				○	◎	○	小テスト・課題
	11	8	※資料 古文「物語」を読む				◎	○	○	ワークシート
	12	6	（随筆）光の窓				○	◎	○	小テスト・課題
	1	4	※資料 古文「随筆」を読む				◎	○	○	ワークシート
	2	2	後期期末試験・返却と解説							
	3	6	※資料 古文「歴史物語」を読む				◎	○	○	ワークシート
合計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
・毎時間、古文単語の小テストを行います。古文を読むための基礎知識として、1年次に引き続き頑張りましょう。また、この点数は「主体的に学習に取り組む態度」の評価にも影響します。 ・書くにしろ読むにしろ、語彙を増やすことが大事です。分からない言葉が文章中にあれば、必ず調べましょう。 ・思考を広げ、何を感じ・考えたかを大切にしてください。また、「なぜ」自分がそう考えたのか、自身の考えや意見を説明できるスキルを養いましょう。										

教 科	地理歴史	科目	世界史探究	学年	2	単位数	4	選択	
使用教科書	新詳 世界史探究（帝国書院）								
使用副教材	最新世界史図説 タベストリー（帝国書院） 大学入学共通テスト 世界史トレーニング問題集（山川出版社）								
科目の目標	・現代世界の形成の歴史的過程と世界の歴史における各文化圏の特色について理解し、文化の多様性・複合性や相互交流を広い視野から考察できるようにする。 ・正しく歴史を学び、歴史的思考力を涵養し、現在とこれからの生きていくための資質を養う。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	・歴史の変化を、その背景にある自然や人々の営みなどとの相互的な関係に気づき、理解できたか。 ・歴史の変化に関する疑問の解決に向けて、歴史的資料を適切かつ効果的に利用できたか。			・歴史の変化に関わる事象の意味、原因、意義を、歴史的な概念に基づき考察できたか。 ・歴史の変化に関わる事象の意味、原因、意義を、自らの言葉で表現できたか。			・自らの経験や思考に基づき、歴史を問いこたえを見つけようとすることができたか。		
評価の算出	・定期考查 達成度をＡ・Ｂ・Ｃの３段階で評価する。			・定期考查 達成度をＡ・Ｂ・Ｃの３段階で評価する。			・提出物、授業への取り組み 達成度をＡ・Ｂ・Ｃの３段階で評価する。		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4		1 部 世界史へのまなざし						授業の取り組み、定期考查
	12		2 部 諸地域の歴史的特質の形成 序章 古代文明の歴史的特質			○	○	○	
	5	12	1 章 東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質			○	○	○	
	6	14	2 章 南アジアと東南アジアの歴史的特質			○	○	○	
	2		前期中間考查			◎	◎	○	
	7	8	3 章 西アジアと地中海周辺の歴史的特質			○	○	○	
	8	8	3 部 諸地域の交流・再編 1 章 1 章 ユーラシア交流圏の成立			○	○	○	
	9	2	前期期末考查			◎	◎	○	
	14		2 章 アジア諸地域の成熟とヨーロッパの進出			○	○	○	
後 期	10	16	3 章 主権国家体制の成立と交易の拡大			○	○	○	授業の取り組み、定期考查
	11	14	4 部 諸地域の結合・変容 1 章 世界の一体化の完成とその影響～3 章 世界の一体化の進展とアジアの変容			○	○	○	
	2		後期中間考查			◎	◎	○	
	12	12	4 章 世界の一体化の完成とその影響～5 章 世界大戦の時代			○	○	○	
	1	8	6 章 戦後の国際秩序と冷戦			○	○	○	
	2	6	第5部 地球世界の課題 1 章 冷戦の展開と平和の模索			○	○	○	
	2		後期期末考查			◎	◎	○	
	3	8	2 章 グローバル化する国際経済とその課題 3 章 情報と科学技術によって結びつく世界			○	○	○	
	合計	140							
学 習 方 法 ・ そ の 他									
○ 考查及び評価について（補足） ・ 考查は年4回、記述の問題も出題するため難易度は高いです。 ・ 非常に広い範囲を出題します。ただ暗記するだけでなく、一つ一つ理解することを心がけましょう。 ○ 授業と学習方法 ・ 教科書、タベストリー、プリントをまとめるファイルはセットで必ず持参してください。 ・ プリントは、整理し各自なくさないように保管してください。 ・ 授業内容は講義形式です。タベストリーを参照して教科書を読み、プリントに書き込み（含む：線入れ）、自分なりのメモを工夫してください。 ・ 歴史は、出来事や人物に対する興味関心を持ち、「なぜ」「どうして」という疑問を抱きながら勉強することが肝心です。									

教科 科		地理歴史	科目	地理探究	学年	2	単位数	4	選択	
使用教科書		新詳地理探究（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）								
使用副教材		新詳地理探究演習ノート（帝国書院）								
科目の目標		現代世界の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、社会的事象の地理的な見方・考え方を培い、グローバル化する国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球の課題への取り組みなどを理解できるか。			地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用し多面的・多角的に考察したり、考察、構想したことを効果的に説明することができるか。			知識及び技能を獲得したり、思考、判断、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしているか。		
評価の算出		・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。			・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。			・提出物 ・復習テスト 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4	1	オリエンテーション							
		11	1部 第1章自然環境 序節 地球環境と人間 1節 地形1／2／3／4				◎	○	○	授業の取り組み、定期考査
	5	12	2節 気候1／2／3／4／5 3節 日本の自然環境1／2／3 4節 地球環境問題1／2／3				◎	○	○	授業の取り組み、定期考査
	6	14	第2章資源と産業 1節 農林水産業1／2／3／4／5／6 2節 食料問題1／2 3節エネルギー・鉱産資源1／2／3／4				◎	○	○	授業の取り組み、定期考査
		2	前期中間考査							
	7	8	4節 資源・エネルギー問題1／2 5節 工業1／2／3／4／5／6 6節 第3次産業1／2／3				◎	○	○	授業の取り組み、定期考査
	8	8	第3章交通・通信と観光、貿易 1節 交通・通信1／2／3 2節 観光1／2 3節 貿易と経済圏1／2／3				◎	○	○	授業の取り組み、定期考査
	9	2	前期期末考査				◎	○	○	授業の取り組み、定期考査
		14	第4章人口、村落・都市 1節 人口1／2 2節 人口問題1／2 3節 村落と都市1／2／3／4				◎	○	○	授業の取り組み、定期考査
後 期	10	16	4節 都市・住居問題1／2／3 第5章生活文化、民族・宗教 1節 衣食住1／2 2節 民族・宗教と民族問題1／2／3／4 3節 国家の領域と領土問題1／2／3				◎	○	○	授業の取り組み、定期考査
	11	14	第2部 第1章 現代世界の地域区分 1節 地域区分 第2章 現代世界の諸地域 序説 地域の考察方法 1節 中国1／2／3／4 2節 韓国1／2 3節 ASEAN諸国1／2／3／4				◎	◎	○	授業の取り組み、定期考査
		2	後期中間考査							
	12	12	4節 インド1／2／3 5節 西アジアと中央アジア1／2／3 6節 北 アフリカとサハラ以南のアフリカ1／2／3				○	◎	○	授業の取り組み、定期考査
	1	8	7節 EU諸国1／2／3／4 8節 ロシア1／2				◎	◎	○	授業の取り組み、定期考査
	2	6	9節 アメリカ合衆国1／2／3／4 10節 ラテンアメリカ1／2／3 11節 オーストラリアとニュージーランド1／2／3				◎	◎	○	授業の取り組み、定期考査
		2	後期期末考査							
	3	8	第3部 第1章 持続可能な国土像の研究					○	◎	課題の取り組み
	合計	140								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
【授業】 ＊準備するもの：教科書・タブレット・地図帳・ファイル・色ペン(2色以上)を必ず持参してください。 ＊「教科書読み」「問題の出し合い」などペアワークを多く取り入れます。 ＊必要に応じてメモをしたり、教科書にマーカーを引いたりしてください。 ＊図表やグラフがたくさん出てきます。何を表している図表・グラフなのかしっかりと確認するようにしましょう。 ＊大学入学共通テストに向けた入試レベルの授業・考査を進めていきます。 【定期試験】 ＊定期考査の成績不振（赤点）は30点未満を指し、30点以上であれば、成績不振の対象外となります。 ＊試験内容は、教科書と同じ内容の写真や表・グラフを中心に出題します。授業でのメモ、書き込みが重要になってきます。										

教 科	地理歴史		科目	日本史探究		学年	2		単位数	4		選択
使用教科書	詳説日本史（山川出版社）											
使用副教材	図説日本史通覧（帝国書院） 改定版4ステージ演習ノート 日本史探究 （数研出版）											
科目の目標	日本の通史の展開を、諸史料に基づいて地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察し、日本の伝統と文化の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。											
評価の観点	① 知識・技能					② 思考・判断・表現				③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	・日本の通史の変化を、その背景にある世界との相互的な関係に留意しながら理解できたか。 ・日本の通史の変化に関わる疑問の解決に向けて、歴史的資料を適切かつ効果的に利用できたか。					・日本の通史の変化に関わる事象の意味、原因、意義を、歴史的な概念に基づき考察できたか。 ・日本の通史の変化に関わる事象の意味、原因、意義を、自らの言葉で表現できたか。				・自らの経験や思考に基づき、日本の通史の変化に関わる疑問を立てることができたか。		
評価の算出	・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。					・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。				・提出物、授業への取り組み 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。		
年 間 の 学 習 計 画									評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容						①	②	③	
前 期	4		第Ⅰ部 原始・古代						◎	○	◎	授業の取り組み、定期考査
	4	8	第1章 日本文化のあけぼの									
	5	12	第2章 律令国家の形成									
	6	2	前期中間考査および解答・解説									
	6	6	第3章 貴族政治と国風文化									
			第Ⅱ部 中世									
	6	8	第4章 中世社会の成立									
	7	10	第5章 武家社会の成長（単元1～2）									
	8	8	第5章 武家社会の成長（単元3～4）									
後 期	9	2	前期期末考査および解答・解説						◎	○	◎	授業の取り組み、定期考査
			第Ⅲ部 近世									
	9	8	第6章 幕藩体制の確立									
	10	10	第7章 幕藩体制の展開									
	10	10	第8章 幕藩体制の動揺									
			第Ⅳ部 近代・現代									
	11	14	第9章 近代国家の成立									
		2	後期中間考査および解答・解説									
	12	12	第10章 二つの世界大戦とアジア（単元1～3）									
期	1	8	第10章 二つの世界大戦とアジア（単元4～6）						◎	○	◎	授業の取り組み、定期考査
	2	6	第11章 占領下の日本									
	2	6	第12章 高度経済成長の時代									
		2	後期期末考査および解答・解説									
	3	6	第13章 激動する世界と日本									
	合計	140										
学 習 方 法 ・ そ の 他												
<持ち物> ・教科書 ・日本史トレーニング問題集 ・授業プリント（＋授業プリントをまとめるためのファイル） ・筆記用具（なるべくカラフルに） <授業> ・原則として、「導入・復習」→「授業プリント」の流れで授業を進めます。 ・原則として、板書などで説明しながら授業プリントに書き込む形式で進めていきます。 ・「人物名」と「人物名以外」で書き込む色を変えることをおすすめします。（なので最低2色） <テキスト> ・「図説 日本史通覧」…日本史を深く学びたい人が家庭で読んでほしいものです。年表と文化史はおすすめです。 ・「4ステージ 演習ノート」…定期考査ごとに課題で提出してもらいます。定期考査の作問もこれを多く参照します。 <その他> ・初めから大学入学共通テストに向けた入試レベルの授業・考査を進めます。 ・次の3つの疑問文を大切にしてください。授業者も常に意識しながら板書・説明をしていきます。 ①「○○とはどういうことか・何か」 ②「○○はなぜか」 ③「○○の結果どうなったか」												

教科		公民	科目	公共	学年	2	単位数	2	必修		
使用教科書		公共（701東京書籍）									
使用副教材		最新公共資料集（第一学習社） 公共ワークノート（東京書籍）									
科目の目標		人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力の育成を図る。									
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。また、現代の諸課題を示す諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に調べ、その情報をまとめている。			現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを表現したりしている。			よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。また、現代の諸課題について主体的に解決しようとする過程を振り返り、自己評価し、それを基に自らを改善しようとしている。			
評価の算出		・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。			・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。			・提出物、授業での発言や取り組み 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。			
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③	
前 期	4	1	第1編 公共の扉（知識の習得）							授業の取り組み、定期考査	
		5	第1章 公共的な空間をつくる私たち				○	○	◎		
	5	6	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方				○	○	◎		授業の取り組み、定期考査
		7	第3章 日本の平和主義と安全保障				○	○	◎		
	6	1	前期中間考査				◎	◎			授業の取り組み、定期考査
		7	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち				○	○	◎		
	8	4	第1章 法的な主体となる私たち（主題1～3）				○	○	◎		授業の取り組み、定期考査
			①法や規範の意義と役割 ②契約と消費者の権利 ③司法参加				○	○	◎		
	9	1	前期末考査				◎	◎			授業の取り組み、定期考査
7						○	○	◎			
後 期	10	8	第2章 政治的な主体となる私たち（主題4～7）				○	○	◎	授業の取り組み、定期考査	
		11	④政治参加 ⑤国際社会 ⑥日本の安全保障 ⑦国際社会の変化				○	○	◎		
	11	7					○	○	◎	授業の取り組み、定期考査	
		1	後期中間考査				◎	◎			
	12	6	第3章 経済的な主体となる私たち（主題8～13）				○	○	◎	授業の取り組み、定期考査	
			⑧雇用と労働問題 ⑨社会の変化と職業観				○	○	◎		
	1	4	⑩市場経済の機能と限界				○	○	◎	授業の取り組み、定期考査	
		2	⑪金融のはたらき ⑫財政の役割と社会保障 ⑬経済のグローバル化				○	○	◎		
	3	1	後期末考査				◎	◎		授業の取り組み、定期考査	
3		第2編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち（探究活動）				◎	◎	◎			
合計		70	課題設定→仮説→情報の収集→探究→発表→まとめ→振り返り				◎	◎	◎	課題の取り組み	
学 習 方 法 ・ そ の 他											
○考査及び評価について（補足） ・上の「評価算出」で合算した点数を、考査の平均点を考慮し評価段階にあてはめて評価をします。 ・定期考査では「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」の2観点を評価します。成績不振は30点未満です。 ○授業と学習方法 ・教科書とワーク、プリントを保管するためのファイルやノートの計3点を持ってきて下さい。 ・副教材の資料集は、家庭学習の応用や、テスト前の復習に活用してください。 ・授業のスタイルはプリント授業となっています。予習としては、授業内で指示された教科書のページ数を読みましょう。 ・常日頃から、ニュースに興味や関心をもち、新聞やテレビのニュースに目を通しておく習慣をつけておきましょう。											

教 科		数学	科目	数学Ⅱ	年次	2	単位数	4	必修	
使用教科書		高等学校 数学Ⅱ（数研出版）								
使用副教材		4プロセス 数学Ⅱ＋B＋C〔数列・統計的な推測・ベクトル〕（数研出版）								
科目の目標		授業を通して知識や数学的な考え方を身につけ、問題演習を通して定着し、自分で問題を解くことができる。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		自分の考えを文章や数式に表すことができる。説明された内容を理解し、それを活用して問題が解くことができる。			問題文から立式したり、図や数式を用いて考察することができる。			授業に積極的に参加し、自分で問題を解くことができる。		
評価の算出		上記の評価の趣旨を踏まえ、数学マラソンや定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、提出課題をもとに評価の算出を行う。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②	③	
前 期	4	18	第1章 式と証明	式と計算			◎	○	◎	小テスト、提出物
	5	18	第2章 複素数と方程式	等式・不等式の証明			○	◎	◎	小テスト、提出物
				複素数と2次方程式の解			◎	○	◎	小テスト、提出物
				高次方程式			◎	○	◎	小テスト、提出物
	6		前期中間考査				◎	◎	◎	定期考査
	7									
	8	12	第3章 図形と方程式	点と直線／円			◎	○	◎	小テスト、提出物
後 期			前期期末考査				◎	◎	◎	定期考査
	9	12		軌跡と領域			○	◎	◎	小テスト、提出物
	24	第4章 三角関数	三角関数			◎	○	◎	小テスト、提出物	
	10	16	第5章 指数関数と対数関数	加法定理			○	◎	◎	小テスト、提出物
	11	8	後期中間考査	指数関数			◎	○	◎	小テスト、提出物
対数関数				◎	○	◎	小テスト、提出物			
12	24	第6章 微分法と積分法	微分係数と導関数			◎	○	◎	小テスト、提出物	
1 期	8	後期期末考査	関数の値の変化			○	◎	◎	小テスト、提出物	
			積分法			◎	○	◎	小テスト、提出物	
	2									
3										
合計		140								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
○授業の受け方 授業を聞いてわからない所を明確にしましょう。 授業を聞いて理解ができれば問題集にも取り組んでみましょう。 ○提出物について 提出物として週末課題を課します。評価にも入るため期限を守りましょう。 わからないところは質問したり解答・解説を読んだりしてもう一度取り組みましょう。 週末課題をもとに小テスト（数学マラソン）を作成します。小テストに向け勉強してください。 ○定期考査、単元テスト 定期考査も単元テストも普段の週末課題の勉強が重要です。日頃からこつこつ取り組みましょう。										

教 科		数学	科目	数学B	年次	2	単位数	2	必修	
使用教科書		高等学校 数学B（数研出版）								
使用副教材		4プロセス 数学Ⅱ＋B＋C〔数列・統計的な推測・ベクトル〕（数研出版）								
科目の目標		授業を通して知識や数学的な考え方を身につけ、問題演習を通して定着し、自分で問題を解くことができる。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		自分の考えを文章や数式に表すことができる。説明された内容を理解し、それを活用して問題が解くことができる。			問題文から立式したり、図や数式を用いて考察することができる。			授業に積極的に参加し、自分で問題を解くことができる。		
評価の算出		上記の評価の趣旨を踏まえ、数学マラソンや定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、提出課題をもとに評価の算出を行う。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②	③	
前 期	4	24 10	前期中間考査 第1章 数列 等差数列と等比数列 いろいろな数列 漸化式と数学的帰納法 前期期末考査				◎ ○ ○	○ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	小テスト、提出物 小テスト、提出物 小テスト、提出物
	5									
	6									
	7									
	8									
	9									
後 期	10	16 10 10	後期中間考査 第2章 統計的な推測 確率分布 統計的な推測 後期期末考査 統計的な推測				◎ ◎ ◎ ○	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎	定期考査 小テスト、提出物 小テスト、提出物 定期考査 小テスト、提出物
	11									
	12									
	1									
	2									
	3									
	合計									
学 習 方 法 ・ そ の 他										
○授業の受け方 授業を聞いてわからない所を明確にしましょう。 授業を聞いて理解ができれば問題集にも取り組んでみましょう。 ○提出物について 提出物として週末課題を課します。評価にも入るため期限を守りましょう。 わからないところは質問したり解答・解説を読んだりしてもう一度取り組みましょう。 週末課題をもとに小テスト（数学マラソン）を作成します。小テストに向け勉強してください。 ○定期考査、単元テスト 定期考査も単元テストも普通の週末課題の勉強が重要です。日頃からこつこつ取り組みましょう。										

教 科		数学	科目	ビジネスと数学	年次	2	単位数	2	選択		
使用教科書		なし									
使用副教材		4プロセス 数学Ⅰ＋A（数研出版）									
科目の目標		数学Ⅰで学習した基礎的な概念や原理・法則を活かして、より高度な問題、生活を相互に関連付けた発展的なテーマや課題について、主体的に解決できる態度を育てるとともに、計算技能や問題解決能力の向上を図る。									
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		自分の考えを文章や数式に表すことができる。説明された内容を理解し、それを活用して問題が解くことができる。			問題文から立式したり、図や数式を用いて考察することができる。			授業に積極的に参加し、自分で問題を解くことができる。			
評価の算出		上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、取り組み方や提出課題をもとに評価の算出を行う。			
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③	
前 期	4	6	数と式（整式の計算、展開）				◎	○	◎	取り組み	
	5	6	数と式（因数分解、実数、平方根）				◎	○	◎	取り組み	
	6	8	前期中間考査				◎	◎	○	定期考査、提出物	
			集合と命題（不等式の計算、集合、命題）				◎	○	◎	取り組み	
	7	4	2次関数（2次関数のグラフ、平行移動、 最大値・最小値）				◎	○	◎	取り組み	
	8	4	2次関数（2次関数の決定）				◎	○	◎	取り組み	
後 期	9	8	前期期末考査				◎	◎	○	定期考査、提出物	
			2次関数（2次方程式、2次不等式）				◎	○	◎	取り組み	
	10	8	図形と計量（三角比、三角比の相互関係、 三角比の拡張）				◎	○	◎	取り組み	
	11	8	図形と計量（正弦定理・余弦定理、図形の計量）				◎	○	◎	取り組み	
	12	6	後期中間考査				◎	◎	○	定期考査、提出物	
			データの分析（代表値、データの散らばり）				◎	○	◎	取り組み	
	1	4	データの分析（散布図、相関係数、仮説検定）				◎	○	◎	取り組み	
2	4	後期期末考査 まとめの問題／課題研究				◎	◎	○	定期考査、提出物		
3	4	課題研究				◎	○	◎	取り組み		
合計		70									
学 習 方 法 ・ そ の 他											
○授業の受け方 授業を聞いてわからない所を明確にしましょう。 授業を聞いて理解ができれば問題集にも取り組んでみましょう。 ○提出物について 提出物を課されたら、自分の力で取り組んでみましょう。評価にも入るため期限を守りましょう。 わからないところは質問したり解答・解説を読んだりしてもう一度取り組みましょう。 ○定期考査 定期考査は普段の勉強が重要です。日頃から問題集にこつこつ取り組みましょう。											

教科 科		理科	科目	物理基礎		学年	2	単位数	2	必修	
使用教科書		改訂版 物理基礎（数研出版）									
使用副教材		三訂版 リードLight物理基礎（数研出版）									
科目の目標		物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を身に付ける。									
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。			観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。			物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。			
評価の算出		定期考査・小テスト・提出課題・レポート・授業参加			定期考査・小テスト・提出課題・レポート・授業参加			小テスト・提出課題・レポート・授業参加			
年 間 の 学 習 計 画								評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容					①	②		③
前 期	4	1	●オリエンテーション							○	授業参加
		5	●運動の表し方					◎	○	◎	小テスト・提出課題・授業参加
		6	●運動の表し方					◎	○	◎	小テスト・提出課題・授業参加
	6	1	《前期中間考査》					◎	◎		定期考査
		7	●様々な力とその働き					◎	○	◎	小テスト・提出課題・授業参加
		7	●様々な力とその働き					◎	○	◎	小テスト・提出課題・授業参加
		1	【観察・実験】物体の落下運動に関する実験					○	◎	◎	レポート・授業参加
		8	●様々な力とその働き					◎	○	◎	小テスト・提出課題・授業参加
		9	《前期期末考査》					◎	◎		定期考査
後 期	10	7	●力学的エネルギー					◎	○	◎	小テスト・提出課題・授業参加
		1	【観察・実験】物体の落下運動に関する実験					○	◎	◎	レポート・授業参加
		11	7	●熱					◎	○	◎
	12	1	《後期中間考査》					◎	◎		定期考査
		1	【観察・実験】熱の利用に関する実験					○	◎	◎	レポート・授業参加
		5	●波					◎	○	◎	小テスト・提出課題・授業参加
		1	【観察・実験】音と振動に関する実験					○	◎	◎	レポート・授業参加
		3	●電気					◎	○	◎	小テスト・提出課題・授業参加
		2	●エネルギーとその利用					◎	○	◎	小テスト・提出課題・授業参加
		1	《後期期末考査》					◎	◎		定期考査
3	●物理学が拓く世界					◎	○	◎	小テスト・提出課題・授業参加		
合計		70									
学 習 方 法 ・ そ の 他											
◎授業の受け方 ・授業前に教科書、ノート、タブレット端末を準備しましょう。また、忘れ物をした際は事前に申し出てください。 ・なぜ？どうして？という疑問を持ち、授業を通してその疑問を解決してきましょう。わからないことは遠慮なく質問してください。 ◎家庭学習の方法 ー予習ー ・事前に教科書に目を通して、単元の概要を把握しましょう。 ー復習ー ・教科書とノートを熟読して理解を深めましょう。 ・授業で扱った問題や、副教材の問題を自力で解いて、自身の理解度を確認しましょう。間違えたところは教科書と照らし合わせて確認し、自力で解けるまで繰り返し挑戦してください。わからないことをわかるようにするのが勉強です。											
わたしたちの生活は様々な物理法則のもとに成り立っています。その奥深さに触れていきましょう。											

教 科		理科	科目	生物基礎	年次	2	単位数	2	必修		
使用教科書		改訂版 生物基礎（数研出版）									
使用副教材		三訂版 リードα生物基礎（数研出版）									
科目の目標		生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身に付ける。									
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を見に付けている。			生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。			生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。			
評価の算出		定期考査・小テスト・提出課題・レポート課題			定期考査・小テスト・提出課題・レポート課題			授業参加・レポート課題・提出課題・小テスト			
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③	
前 期	4	1	●オリエンテーション								
		5	●生物の特徴				◎	◎	○	小テスト・提出課題・レポート課題	
	5	3	【観察・実験】顕微鏡観察の基本操作、細胞の観察、酵素のはたらき				○	◎	◎	レポート課題	
		3	●生物の特徴				◎	◎	○	小テスト・提出課題・レポート課題	
	6	1	《前期中間考査》				◎	◎		定期考査	
		6	●遺伝子とその働き				◎	◎	○	小テスト・提出課題・レポート課題	
		1	【観察・実験】DNAの抽出				○	◎	◎	レポート課題	
	7	4	●遺伝子とその働き				◎	◎	○	小テスト・提出課題・レポート課題	
	8	4	●神経系と内分泌系による調節				◎	◎	○	小テスト・提出課題・レポート課題	
	9	1	《前期期末考査》				◎	◎		定期考査	
	6	●神経系と内分泌系による調節				◎	◎	○	小テスト・提出課題・レポート課題		
	1	【観察・実験】運動によるからだの状態の変化				○	◎	◎	レポート課題		
後 期	10	7	●免疫				◎	◎	○	小テスト・提出課題・レポート課題	
		1	【観察・実験】食作用の観察				○	◎	◎	レポート課題	
	11	4	●免疫				◎	◎	○	小テスト・提出課題・レポート課題	
		3	●植生と遷移				◎	◎	○	小テスト・提出課題・レポート課題	
		1	《後期中間考査》				◎	◎		定期考査	
	12	6	●植生と遷移				◎	◎	○	小テスト・提出課題・レポート課題	
	1	3	●生態系とその保全				◎	◎	○	小テスト・提出課題・レポート課題	
		1	【観察・実験】海洋生物の観察				○	◎	◎	レポート課題	
	2	3	●生態系とその保全				◎	◎	○	小テスト・提出課題・レポート課題	
		1	《後期期末考査》				◎	◎		定期考査	
3	3	●生態系とその保全				◎	◎	○	小テスト・提出課題・レポート課題		
	1	●まとめ				○	○	○	授業参加		
合計		70									
学 習 方 法 ・ そ の 他											
◎授業の受け方 ・毎回必ず教科書、ノート、タブレット端末を用意しましょう。また、忘れ物をした際には事前に申し出てください。 ・なぜ？どうして？という疑問を持ち、授業を通してその疑問を解決していきましょう。 ・わからないことはどんどん質問してください。 ◎家庭学習の仕方 ー予習ー ・教科書に目を通してどんな内容を学ぶのかを把握するよう努めてください。 ー復習ー ・教科書とノートを熟読して内容を定着させましょう。 ・問題集を解いて、授業を理解できているか確認し、間違えたところを重点的に学び直しましょう。 わたしたちはたくさんさんの生命に囲まれて生活しています。その奥深さを理解し面白さに触れていきましょう！											

教 科		理科	科目	化学	年次	2	単位数	4	選択	
使用教科書		高等学校 化学（啓林館）								
使用副教材		改訂版 リードα化学（数研出版） 改訂版 フォトサイエンス化学図録（数研出版）								
科目の目標		化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身に付ける。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。			化学的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。			化学的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		
評価の算出		定期考査，小テスト，提出課題，授業参加			定期考査，小テスト，提出課題，授業参加			小テスト，提出課題，授業参加		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4	1	・オリエンテーション							授業参加
		11	・物質の状態とその変化				◎	○	○	授業への取り組み・課題・単元テスト
	5	12	・溶液と平衡				○	◎	○	授業への取り組み・課題・単元テスト
		6	1	《前期中間考査》				◎	◎	
	15		・化学反応とエネルギー				○	◎	◎	授業への取り組み・課題・単元テスト
		7	4	・電池と電気分解				◎	○	◎
	4		・反応速度				◎	◎	○	授業への取り組み・課題・単元テスト
		8	8	・化学平衡とその移動				○	◎	◎
	9		1	《前期期末考査》				◎	◎	
15		・電離平衡				○	◎	◎	授業への取り組み・課題・単元テスト	
	後 期	10	16	・無機物質（非金属）				◎	◎	○
11			15	・無機物質（金属）				◎	◎	○
		1	《後期中間考査》				◎	◎		定期考査
12			12	・有機化合物（脂肪族化合物）				◎	◎	◎
		1	8	・有機化合物（芳香族化合物）				◎	◎	◎
2			7	・天然高分子化合物				◎	○	◎
		1	《後期期末考査》				◎	◎		定期考査
3			7	・合成高分子化合物				◎	○	◎
		1	・総まとめ				○	○	○	授業参加
合計			140							
学 習 方 法 ・ そ の 他										
◎授業の受け方 ・毎回教科書と化学図録，タブレット端末を必ず持ってくること。 ・公式や計算過程をまる写しするのではなく，どうしてこの結果が得られたのか？を常に意識しながら板書をとってください。 ・これまで数学で習った計算及び，化学基礎の知識はしっかりと復習してください。 ・わからない箇所はわからないままにせず，授業後すぐに質問しましょう。 ◎家庭学習の仕方 ー復習ー ・授業で学習した内容を思い出しながら，教科書とノートを見返して重要な点を自分なりに整理しましょう。 ・知識の整理ができれば，副教材で問題演習をし，理解できているかを確認しましょう。 わたしたちの生活は化学の知識に支えられて成り立っています。その奥深さに触れていきましょう。										

教 科		保健体育	科目	体育	学年	2	単位数	2	必修	
使用教科書		なし								
使用副教材		なし								
科目の目標		運動の合理的・計画的な実践を通して知識を深めるとともに技能を高め、楽しさを深く味わうことができるようにする。 自己の体力向上及び健康の保持増進を図り、公正、協力、責任、参画、安全などに対する意欲を高める。 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		運動の考え方や技の名称、行い方、体力の高め方、課題解決の方法などを理解できているか。 運動の特性や魅力に応じた楽しさを味わい、技能や動きなどを高めることができたか。			グループやチーム、自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できているか。また、取り組みから得た知識・技能をまとめることができているか。			運動に主体的に取り組み、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとしているか。		
評価の算出		A：技能、知識共に達成度が高い。 B：概ね達成することができた。 C：技能、知識共に達成度が低い。			A：話し合い活動や発表の様子が積極的である。資料の完成度が高い。 B：概ね、達成する事ができた。 C：話し合い活動の様子や発表、資料の完成度の水準が低い。			A：積極的に活動に参加し、役割以上に取り組むことができた。 B：活動に参加し、自己の役割を果たすことができた。 C：活動への参加が消極的であり、他人任せである。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②	③	
前 期	4	1	オリエンテーション【1】				○	○	○	小テスト 記録用紙 新体力テスト換算表 記録用紙 縄跳び換算表 記録用紙 長距離走タイム換算表
	5	1	体育理論【1】：①スポーツにおける技能と体力				○	○	○	
		2	集団行動【2】				○	○	○	
	6	9	新体力テスト【4】体づくり運動【5】：体ほぐし運動・縄跳び				○	○	○	
		3	陸上競技：長距離走【3】				○	○	○	
	7	16	選択【16】サッカー、バレーボール				○	○	○	
	8						○	○	○	
	9									
10	3	体育理論【3】 ②スポーツにおける技術と戦術 ③技術の上達過程と練習 ④効果的な動きのメカニズム				○	○	○	小テスト 記録用紙 種目確認・各種テスト 記録用紙 種目確認・各種テスト 小テスト 記録用紙 種目確認・各種テスト 記録用紙 種目確認・各種テスト	
						○	○	○		
						○	○	○		
11	11	カーリング授業【11】				○	○	○		
12	8	(男)武道【8】：柔道／(女)ダンス【8】：創作ダンス				○	○	○		
	2	体育理論【2】 ⑤運動やスポーツでの安全の確保				○	○	○		
1	8	器械運動（共通）マット運動、跳び箱【8】				○	○	○		
2	3	選択球技Ⅰ 卓球・バドミントン 【3】				○	○	○		
3	3	選択球技Ⅰ 卓球・バドミントン 【2】				○	○	○		
合計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
◎授業の受け方 ・指定ジャージ上下、ハーフパンツ、指定Tシャツは毎回準備して下さい。屋外で実施する場合は指定運動靴を使用して下さい。 ※屋外用指定運動靴には、使用前までに『名前』を必ず記入するようにお願いします。 ※屋外用指定運動靴は、指定のシューズケースに入れ、靴箱にしまうこと。 ・体育館やグラウンドへの移動を早めに済ませ、始業チャイムまでに整列して待機して下さい。 ・「わかった!、できた!」を目指した授業を展開します。運動技能の得意・不得意に関わらず意欲を持って臨んで下さい。 ◎提出物について ・『授業課題』をタブレットを活用して配布します。課題の指示を確認し、提出期限を守ることを大切にして下さい。 ・「思考・判断・表現」の評価対象になります。 ◎定期考査について ・実施しません。その代わりに授業内で運動技能テスト（スキルテスト）及び運動への理解度テスト（ペーパーテスト）を実施します。 ◎カーリングについて ・わからないみどりスポーツパークで2回実施します。詳しくはガイダンスを実施します。 ◎体育理論の実施時期は、単元の進行状況によって変更する場合があります。										

教 科		保健体育		科目	保健		学年	2		単位数	1		必修	
使用教科書		現代高等保健体育（大修館書店）												
使用副教材		現代高等保健体育ノート（大修館書店）												
科目の目標		保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。												
評価の観点		① 知識・技能					② 思考・判断・表現					③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		個人及び社会生活における健康・安全についての知識を身に付け、その役割について理解できているか。					健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、筋道を立てて他者に表現できているか。					自他の健康やそれを支える環境づくりに関心をもち、実生活と結びつけて総合的に捉えようとする態度が身についているか。		
評価の算出		・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。					・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。					・授業参加状況 ・提出物の内容 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。		
年 間 の 学 習 計 画											評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容								①	②	③	
前 期	4	3	オリエンテーション(1) ライフステージと健康(2)								○	○	○	・観察による評価 ・定期考査 ・ノート提出
	5	3	思春期と健康(2) 性意識と性行動の選択(1)								○	○	○	
	6	4	妊娠・出産と健康(2) 避妊法と人工妊娠中絶(2)								○	○	○	
	7	2	結婚生活と健康(1) 中高年期と健康(1)								○	○	○	
	8	2	働くことと健康(1) 労働災害と健康(1)								○	○	○	
	9	4	健康的な職業生活(2) 前期期末考査・返却(2)								○	○	○	
後 期	10	4	大気汚染と健康（1） 水質汚濁・土壌汚染と健康（2） 環境と健康にかかわる対策(1)								○	○	○	・観察による評価 ・定期考査 ・ノート提出 ・観察による評価
	11	4	ごみの処理と上下水道の整備(1) 食品の安全性(2) 食品衛生にかかわる活動（1）								○	○	○	
	12	3	保健サービスとその活用(1) 医療サービスとその活用(1) 医薬品の制度とその活用(1)								○	○	○	
	1	2	医薬品の制度とその活用(1) さまざまな保健活動や社会的対策(1)								○	○	○	
	2	2	後期期末考査・返却(2)								○	○	○	
	3	2	高等学校保健についてのまとめ(1)								○	○	○	
合計		35												
学 習 方 法 ・ そ の 他														
◎授業の受け方 ・教科書/ノート/タブレットを用意してください。 ・基本的知識を理解して課題解決するために、積極的に発言したり、グループ活動に参加することが大切です。 ・形態は一斉、グループ学習、ペアワーク、実験など様々です。ねらいを理解して取り組みましょう。 ◎定期考査について ・前期期末考査と後期期末考査で実施します。出題範囲が広がりますので計画的に家庭学習に取り組んで下さい。 ◎ノート提出について ・各期考査に合わせて、学習ノートの提出があります。コツコツ取り組みましょう。														

教 科	芸術	科目	音楽Ⅱ	年次	2	単位数	2	選択	
使用教科書	MOUSA2（教育芸術社）								
使用副教材	なし								
科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、社会や生活の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。 ①曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 ②自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 ③主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、完成を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱・器楽・創作などで表している。			音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したこととのかかわりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。			音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。		
評価の算出	授業中の様子や提出記録物の内容、実技、小テストの実施に加え、単元ごとに設定される目標をどれだけ達成しようとしているかという観点で評価を付けます。								
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	1	オリエンテーション						授業での取り組みの様子、実技テストでの演奏、発表会の態度、鑑賞の際の記入シートや小テストなどから成績を付けます。
		2	【楽典】音楽Ⅰで学習した復習			◎	○	○	
		3	【歌唱】日本歌曲・イタリア歌曲			◎	○	○	
	5 6	10	【器楽・創作】 箏			◎	○	○	
		7	10	【器楽】ギター			◎	○	
	8	2	【鑑賞】音とイメージ			○	◎		
9	10	【器楽・鑑賞】リコーダーアンサンブル			◎	○	○		
後 期	10	12	【器楽・鑑賞】ピアノ（独奏・連弾）						
	11					◎	○	○	
	12	2	【歌唱・鑑賞】季節の歌						
	1	6	【器楽】トーンチャイム			◎	○	○	
	2	4	【歌唱】合唱						
		2	【鑑賞】舞台音楽			○	◎	○	
3	6	【器楽】選択楽器							
合計		70							
学 習 方 法 ・ そ の 他									
音楽が得意でも苦手でも、真剣に取り組む姿勢が大切です。一生懸命に取り組んでください。									

教 科		芸術		科目	美術Ⅱ		年次	2	単位数	2	選択	
使用教科書		美術2（光村図書出版）										
使用副教材		絵の具、スケッチブック等										
科目の目標		美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成する。										
評価の観点		① 知識・技能				② 思考・判断・表現				③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるかどうか。				造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるかどうか。				主体的に美術の幅広い創造活動に取り組んでいるかどうか。また、美術を愛好する心情・感性、美術文化への親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度が養われているかなど。		
評価の算出		授業中の様子、各種提出物、完成作品より、まず単元毎に設定された目標をどの程度達成しているかで観点別評価（A～C）をつけます。その後、観点別評価を元に前期・後期毎に評価（1～5）をつけ、年度末に最終的な科目としての前後期統合した評定（1～5）を算出します。										
年 間 の 学 習 計 画										評価の重点		評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容					①	②	③		
前 期	4	1	オリエンテーション 1年間の学習について確認をおこないます。							○	各単元毎に目標が描かれた授業計画表を提示します。原則、その目標を評価の観点毎にどの程度達成できたかでA～Cをつけていきます。 【知識・技能】 主に提出された作品、練習課題から評価します。 【思考・判断・表現】 主に提出された作品、鑑賞文の他、制作途中のアイディアスケッチや振り返り・自己評価に書かれたことも参考に評価します。 【主体的に学習に取り組む態度】 主に普段の授業中の様子や、宿題・その他提出物の取り組み具合から評価します。提出物の締め切りを守れているかどうかもちこに含まれます。	
	4	18	デザインイラスト展へ出品する作品制作 自ら主題を決定し、					○	○	○		
	6		意図に沿った表現や技法を取捨選択して制作します。									
	7	9	テキスタイルデザイン(機織り) 使う場面や目的に沿ったデザインや材料を考え、					○	○	○		
	9		オリジナルの布を織ります。									
後 期	9	18	ストップモーションによるアニメーション制作 アニメーションの原理を学び、アニメーションならではの表現や技法を意識した制作を行います。					○	○	○		
	12	12	金属加工による作品制作（ペーパー鋳型） 鋳型の基礎を学び、金属の特性や鋳型として無理のない					○	○	○		
	1		デザインを考えながら制作します。									
	2	12	自画像鑑賞と自画像コラージュ どんな人物かが伝わるよう、技法や素材を工夫して自画像の					○	○	○		
	3		制作を行います。また、それに伴って有名な画家の自画像を何点か鑑賞し、どのような人物だったか考えてみましょう。									
合計		70										
学 習 方 法 ・ そ の 他												
○学習方法 2年生は1年生の頃の学習内容を応用したり、難易度の高い制作が多いです。資料集めや素材の準備など計画的に制作しましょう。作品はすべて提出してもらいます。欠席した際の補習は放課後に行います(自己申告制)。作品は単元の最終日までには必ず提出してください。 チャイムと同時に授業を始めます。机・イス、道具の準備は休み時間に済ませましょう。 ○その他 絵の具など、量が少なくなった物は各自で補充しておきましょう。 配布したプリントを保管するクリアファイルは各自で用意をして下さい。 イラストボードやペーパー鋳型セット代として教材費がかかります。												

教 科		芸術	科目	書道Ⅱ	年次	2	単位数	2	選択	
使用教科書		書Ⅱ（教育図書）								
使用副教材		なし								
科目の目標		書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		書の表現方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけている。			書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。			感性を高め、書の伝統と文化と豊かに関わり、書の幅広い活動に主体的に取り組もうとしている。		
評価の算出		授業中の様子、各種提出物、完成作品より、まず単元毎に設定された目標をどの程度達成しているかで観点別評価（A～C）をつけます。その後、観点別評価を元に前期・後期毎に評価（1～5）をつけ、年度末に最終的な科目としての前後期統合した評定（1～5）を算出します。								
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4	4	・オリエンテーション				◎	○	◎	各単元毎に目標を提示します。原則、その目標を評価の観点毎にどの程度達成できたかでA～Cをつけていきます。 【知識・技能】 主に提出された作品により評価します。 【思考・判断・表現】 主に提出された作品、鑑賞文・振り返り・自己評価により評価します。 【主体的に学習に取り組む態度】 主に普段の授業中の様子や、その他提出物の取り組み具合から評価します。提出物の締め切りを守れているかどうかここに含まれます。
	5	12	○漢字の書…多彩な書（祭姪文稿・温泉銘） 全道学校書道展出品				◎	○	○	
	6									
	7	12	○漢字の書…選択古典（展覧会出品に向けて） 半切臨書：書の甲子園出品				○	◎	○	
	8	4	○漢字(隸書)の書…選択古典				○	◎	○	
	9	8	○漢字の書・・・立体表現				◎	○	○	
後 期	10									
	11	10	○仮名の書・・・三色紙				◎	○	○	
	12	10	○漢字仮名交じりの書…自分の言葉を書表現 全国学生書道展出品				○	○	◎	
	1	6	○漢字仮名交じりの書…誰かの言葉で書表現				○	○	◎	
	2									
	3	4	○創作の書…心情に合わせた書表現				○	○	◎	
合計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
【授業での約束事】 ・ 集中して書く時は集中して書く、他人と交流する時は精一杯やる。メリハリをつけて授業に臨みましょう。 ・ 授業開始のチャイムと同時に授業を始めるので、それまでに準備を完了させておくこと。 毛氈、墨池、文鎮、筆、用紙、教科書等、その他必要であればその都度指示を出します。 ・ 用具は大切に扱い、特に筆・硯はきれいに洗いましょう。										

教 科	外国語 科目	英語コミュニケーションⅡ	年次	2	単位数	4	必修
使用教科書	桐原書店『Heartning English CommunicationⅡ』						
使用副教材	Heartening English CommunicationⅡ Advanced Exercises、e-Learning（ICT教材）						
科目の目標	Can-Doリストに基づく						
評価の観点	① 知識・技能		② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	・外国語の音声や語彙、表現、文法などを正しく理解し、用いることができる。 ・英語を用いた言語活動を通して実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能が身についている。		・必要な情報を読み取り、話し手や書き手の意図を把握したり、概要や要点などを目的に応じてとらえることができる。 ・日常的、社会的な話題について、一定の支援や準備を活用すれば、多様な語句や文を用いて情報や考え、気持ちなどを詳しく伝えあうやり取りを続けることができる。 ・日常的、社会的な話題について、事前の準備や一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて論理性に注意して複数の段落からなる文章で詳しく書くことができる。		・外国語の音声や語彙、表現、文法などを正しく理解しようとしている。 ・日常的、社会的な話題について、一定の支援や準備を活用すれば、多様な語句や文を用いて情報や考え、気持ちなどを詳しく伝えあうやり取りを続けようとしている。 ・自分の学習に関して見通しを立てたり振り返ったりして、課題を見つたり、前の自分と比べて何ができるようになったかや、課題を解決するために必要な取り組みについて具体的に考えている。		
評価の算出	・小テスト（文法・リスニング） ・定期考査 ・音読課題		・パフォーマンステスト ・提出物（内容） ・定期考査		・パフォーマンステスト ・提出物（提出状況） ・振り返り		
年 間 の 学 習 計 画					評価の重点		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容	①	②	③	評価方法
前 期	4	10	Lesson1		◎	◎	小テスト、考査、パフォテ、提出物
		1	小テスト①	◎	○		
		2	スピーキングパフォテ①		◎	◎	
	5	10	Lesson2		◎	◎	小テスト、考査、パフォテ、提出物
		1	小テスト②	◎	○		
		2	スピーキングパフォテ②		◎	◎	
	6	2	前期中間考査	◎	◎	○	小テスト、考査、パフォテ、提出物
		11	Lesson3		◎	◎	
		1	小テスト③	◎	○		
	7	2	スピーキングパフォテ③		◎	◎	小テスト、考査、パフォテ、提出物
		10	Lesson4		◎	◎	
		1	小テスト④	◎	○		
	8	2	スピーキングパフォテ④		◎	◎	小テスト、考査、パフォテ、提出物
		10	Lesson5		◎	◎	
		1	小テスト⑤	◎	○		
	9	2	スピーキングパフォテ⑤		◎	◎	小テスト、考査、パフォテ、提出物
		2	前期期末考査	◎	◎	○	
		10	Lesson6		◎	◎	
	1	小テスト⑥	◎	○		小テスト、考査、パフォテ、提出物	
	2	スピーキングパフォテ⑥		◎	◎		
後 期	10	11	Lesson7		◎	◎	小テスト、考査、パフォテ、提出物
		1	小テスト⑦	◎	○		
		2	スピーキングパフォテ⑦		◎	◎	
	11	11	Lesson8		◎	◎	小テスト、考査、パフォテ、提出物
			小テスト⑧	◎	○		
		2	スピーキングパフォテ⑧		◎	◎	
	12	2	後期中間考査	◎	◎	○	小テスト、考査、パフォテ、提出物
		10	Lesson9		◎	◎	
		1	小テスト⑨	◎	○		
	1	2	スピーキングパフォテ⑨		◎	◎	小テスト、考査、パフォテ、提出物
		5	Lesson10		◎	◎	
		2	後期期末考査	◎	◎	○	
2	5	Lesson10		◎	◎	小テスト、考査、パフォテ、提出物	
	1	小テスト⑩	◎	○			
	2	スピーキングパフォテ⑩		◎	◎		
合計	140						
学 習 方 法 ・ そ の 他							
・用意するもの：教科書、ワーク、筆記用具、タブレットPC、A4ファイル（二つ穴が開いて閉じられるもの）。 ・この授業では、皆さんの取り組みを細かい項目にわたって評価しますので、テストだけ頑張る、提出物だけ出す、のではなく全体的にしっかり取り組みましょう。 ・ペアワークやグループワークをたくさん行います。英語でどう表現すればわからないときは、タブレットを活用したり、先生に聞いたりして新しい表現を積極的に身につけていってください。							

教 科 科	外国語	科目	時事英語	年次	2～3	単位数	2	選択	
使用教科書	エミル出版“NEWSBREAKS for BASIC English Learners 2025”、 エミル出版“info.box 2025-26 for ELEMENTARY English Learners”								
使用副教材	数研出版「英語演習ノートORANGE版-英文法の確認-」								
科目の目標	1 社会的な話題について読んだり聞いたりしたことをもとに、情報を簡潔に伝え、自分の考えや気持ちを論理的に述べられる。 2 日常的な話題について、自分の考えや気持ちを論理的に話し合うことができる。 3 高校レベルの英文法について理解し、必要に応じて活用することができる。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	・正しい語順と語彙を理解し、作文や発表ができています。 ・正しい発音と流暢さを意識して発話しようとしている。			・与えられた情報をもとに、自分の考えや気持ちを論理的に述べることができる。 ・読み取った情報を、自分の言葉で要約・再構成することができる。			・間違いを恐れず自分の考えや気持ちを述べようとしている。 ・ICTを活用して情報を読み取り、発信しようとしている。		
評価の算出	確認テスト パフォーマンステスト			確認テスト パフォーマンステスト			パフォーマンステスト 確認テスト 提出物		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	2	オリエンテーション（自己紹介アクティビティ）				○	○	確認テスト 確認テスト
		2	Topic 1 “Ichiro in the Hall of Fame”【昨年度版info.boxを使用】			○	○		
		2	Topic2 “Inflation and Food Prices”【昨年度版info.boxを使用】			○	○		
	5	1	確認テスト			○	○	○	確認テスト 確認テスト 確認テスト パフォーマンステスト
		2	Topic3 “The World’s Poorest President”【昨年度版info.boxを使用】			○	○		
		1	文法の演習【英語演習ノートORANGE版を使用】			○			
		2	パフォーマンステスト				○	○	
	6	1	確認テスト			○	○	○	確認テスト 確認テスト 確認テスト 確認テスト 確認テスト
		2	Topic 4 “Forest Fires in Japan”【昨年度版info.boxを使用】			○	○		
		1	文法の演習【英語演習ノートORANGE版を使用】			○			
		2	Topic5 “Expo2025 Osaka”【昨年度版info.boxを使用】			○	○	○	
		1	確認テスト			○	○	○	
	7	1	文法の演習【英語演習ノートORANGE版を使用】			○			確認テスト
		2							
	7	2	パフォーマンステスト			○	○	○	ライティング 確認テスト
		2	Topic1【今年度版info.boxを使用】			○	○		
	8	1	文法の演習【英語演習ノートORANGE版を使用】			○			確認テスト 確認テスト 確認テスト
		2	Topic2【今年度版info.boxを使用】			○	○		
		1	確認テスト			○	○	○	
	9	2	Topic3【今年度版info.boxを使用】			○	○		確認テスト 確認テスト 確認テスト プレゼンテーション
		2	Topic4【今年度版info.boxを使用】			○	○		
4		パフォーマンステスト			○	○	○		
後 期	10	1	文法の演習【英語演習ノートORANGE版を使用】			○			確認テスト プレゼンテーション 確認テスト 確認テスト 確認テスト 確認テスト
		2	Topic5【今年度版info.boxを使用】			○	○		
		1	文法の演習【英語演習ノートORANGE版を使用】			○			
		2	Topic6【今年度版info.boxを使用】			○	○		
		1	文法の演習【英語演習ノートORANGE版を使用】			○			
		1	確認テスト			○	○	○	
	11	2	Topic7【今年度版info.boxを使用】			○	○		確認テスト 確認テスト 確認テスト プレゼンテーション 確認テスト
		1	文法の演習【英語演習ノートORANGE版を使用】			○			
		2	Topic1【今年度版NEWSBREAKSを使用】			○	○		
		1	確認テスト			○	○	○	
		2	パフォーマンステスト			○	○	○	
	12	2	Topic2【今年度版NEWSBREAKSを使用】			○	○		確認テスト 確認テスト 確認テスト 確認テスト
		1	文法の演習【英語演習ノートORANGE版を使用】			○			
		2	Topic3【今年度版NEWSBREAKSを使用】			○	○		
		1	文法の演習【英語演習ノートORANGE版を使用】			○			
	1	2	確認テスト			○	○	○	ライティング
		2	パフォーマンステスト			○	○	○	
	2	4	パフォーマンステスト			○	○	○	ライティング
	3	4	パフォーマンステスト				○	○	プレゼンテーション
合計	70								
学 習 方 法 ・ そ の 他									
・この授業で使用する教科書は最新の時事問題を扱うため、6月中旬に届くまではプリントでの学習になります。 ・定期考査は実施せず、主に確認テスト、パフォーマンステスト（作文、インタビューなど）を通して評価を行います。積極的に英語を使うことを期待します。 ・持ち物はタブレット、筆記用具、『英語演習ノートORANGE版』、『info.box』、『NEWSBREAKS』の5点です。時期に関わらず全て持参してください。 ・タブレットではプレゼンテーション資料の作成や、単語調べに使用します。 ・予習は不要です。ただし、パフォーマンステスト確認テストに向けた復習を強く推奨します。									

教 科	家庭	科目	家庭基礎	年次	2	単位数	2	必修																	
使用教科書	Agenda家庭基礎 実教出版																								
使用副教材	生活学Navi 資料十成分表 2026 実教出版																								
科目の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。																								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度																		
評価の趣旨	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会の関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係わる技能を身に付けている。			生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。			様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。																		
評価の算出	【知識・技能】テスト、実習 【思考・判断・表現】テスト、観察、ワークシート 【主体的に学習に取り組む態度】観察、ワークシート、実習																								
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法																	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③																
前 期	4	1	オリエンテーション			◎	◎	◎	ワークシート、実習 テスト																
		5	6章 衣生活 ー選んで着るー																						
	5	5	6章 衣生活 ー選んで着るー （被服実習）							◎	◎	◎	ワークシート、実習 テスト												
		1	<前期中間考査>																						
	6	4	6章 衣生活 ー選んで着るー （被服実習）											◎	◎	◎	ワークシート、実習								
		4	1章 自分・家族 ー多様化した社会に生きるー																						
	7	1	1章 自分・家族 ー多様化した社会に生きるー															◎	◎	◎	ワークシート、実習				
		3	2章 子ども ー子どもと生きるー																						
	8	4	2章 子ども ー子どもと生きるー																			◎	◎	◎	ワークシート、実習
		9	5	3章 高齢者 ー高齢者と生きるー																					
3	4章 社会福祉 ー支えあいともに生きるー（見学旅行）																								
後 期	10	8	5章 食生活 ー楽しく安全に食べるー			◎	◎	◎	ワークシート、実習 テスト																
		11	6	5章 食生活 ー楽しく安全に食べるー（調理実習）																					
			1	8章 消費・環境 ー消費社会を生きるー																					
			1	<後期中間考査>																					
	12	6	8章 消費・環境 ー消費社会を生きるー（金融講話）							◎	◎	◎	ワークシート、実習												
		1	4	7章 住生活 ー人間らしく住むー																					
			2	4	7章 住生活 ー人間らしく住むー																				
				3	4									7章 住生活 ー人間らしく住むー											
合計		70																							
学 習 方 法 ・ そ の 他																									
《授業について》 ・家庭生活の充実と向上を目指し、さまざまな視点から家庭生活について学びます。自分の生活と関連づけて各分野の学習に取り組みましょう。 《定期考査》 ・年2回実施（前期中間、後期中間）																									

教 科	家庭	科目	保育介護	年次	2～3	単位数	2	選択	
使用教科書	なし								
使用副教材	なし								
科目の目標	家庭生活に関わる保育や介護について、基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭・地域・社会の果たす役割や、保育・介護を取り巻く課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	子どもや高齢者を取り巻く現状を理解し、その解決に向けて思考を深めている。子どもの生活や発達段階、高齢者の生活課題を理解したうえで、子どもや高齢者と触れ合うことができる。			子育てや介護の課題を見だし、解決に向けて思考を深め、判断し工夫創造することができる。			子どもや高齢者に関心を持ち、社会の一人として保育・介護のあり方を自らの課題として考えようとしている。		
評価の算出	ワークシートや定期考査、授業態度などで評価を算出します。								
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	1	オリエンテーション						ワークシート ワークシート 考査
	4	4	子どもの発達						
	4	4	子どもの発達過程						
	5	6	子どもの保育				◎	◎	
	6	7	子どもの生活						
	7	5	高齢者のこころとからだの基礎的理解						
	7	5	高齢者の発達や老化、認知症の理解				◎	◎	
	8	4	高齢者福祉の制度とサービス						
	9	6	介護の意義と役割						
9	1	前期期末考査			◎	◎			
後 期	10	5	高齢者の健康と生活						考査 ワークシート、実習 実習 ワークシート、実習
	11	3	子どもの福祉						
	11	1	後期中間考査			◎	◎		
	12	6	乳幼児・高齢者向け献立調理実習（おやつ・介護食）			◎	◎	◎	
	1	4	子どもの文化				◎	◎	
	2	4	子育て支援と保育						
	3	4	高齢者の自立支援と介護			◎	◎	◎	
合計	70								
学 習 方 法 ・ そ の 他									
家庭生活における保育・介護について、様々な視点から学びます。自分自身の日常生活の中で実践できるよう、興味・関心を持って授業に臨みましょう。定期考査は年2回です。									

教 科	商 業	科 目	ビジネスコンピューティング	学 年	2	単位数	2	選 択	
使用教科書	なし								
使用副教材	全国商業高等学校協会主催 令和8年度版 全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集 3級								
科目の目標	企業において必要とされるＩＣＴに係る知識・技術を習得することで社会人としての実践力を高めるとともに、実社会における情報化の実態を学ぶことで、自ら果たすべき役割を理解しつつ進路意識の向上を図る。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	各種ソフトウェアの活用技術が身についており、指示された業務に活用することが出来る			職場での活用について考え、またより良い資料作成について工夫できている			自らの将来を見据え、進路意識を持って授業に取り組んでいる		
評価の算出	単元テスト 定期考查 実技試験 検定試験			単元テスト 定期考查 実技試験 検定試験			日々の取り組み 提出物		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	7	○企業における情報の実体化 ・現代社会におけるＩＣＴ技術の重要性 ・各種職業におけるＩＣＴ技術の活用状況			◎	○	◎	日々の取り組み・単元テスト
	5	7	○ワープロおよびＤＴＰソフトの利用 ・コンピュータ操作に関する基本的技術とタイピングの基礎			◎	○	◎	
	6	7	・Wordを利用した文書作成の基本 ・Publisherを利用したより訴求力のあるドキュメントの作成						検定試験 日々の取り組み・単元テスト
	7	5	○全商ビジネス文書実務検定3級 受験			◎	◎	○	
	8	5	○表計算ソフトの活用 ・Excelの基礎 ・関数の利用			◎	◎	○	
			・関数ネストについて ・グラフやオブジェクトの挿入について						
9	7 1	○前期期末考查			◎	◎	○	定期考查	
後 期	10	7	○表計算ソフトの応用 ・資料の作成について			◎	◎	○	日々の取り組み・単元テスト
	11	7	・より効率的な資料作成について						
	12	5	○データベースの基礎 ・データベースの仕組みとSQL			◎	◎	○	日々の取り組み・単元テスト
	1	3	○全商情報処理検定3級 受験 ・Accessの基礎			◎	◎	○	
	2	5	・新規データベースの作成実習						定期考查 成果物
	3	4	○後期期末考查 ○課題制作			◎	◎	◎	
合 計		70							
学 習 方 法 ・ そ の 他									
・実習が中心となるため、技術的な修練を怠らないようにすることが重要。 ・定期考查はもとより、章末テストの結果なども評価対象とする。 ・ビジネス文書および情報処理検定取得を目標とするため、それに対する取り組みも評価対象とする。 ・コンピュータの利用にあたっては、規則や注意を遵守し大切に使用すること。									